

■道路利用者への海拔情報提供

- ◆ 東日本大震災で甚大な被害をもたらした津波被害を踏まえ、津波被害軽減対策のひとつとして、道路施設等に海拔表示シートを設置。
- ◆ 海拔表示シートは、全国統一された海拔表示設置方針（案）に基づき、北陸道路標識適正化委員会（新潟県部会）で設置方針、仕様等を決定。
- ◆ 新潟県内の直轄国道では、平成24年12月末までに設置を完了。設置枚数は合計451枚（うち、新潟市内222枚）。



直轄国道(新潟市内)における海拔表示シート設置区間

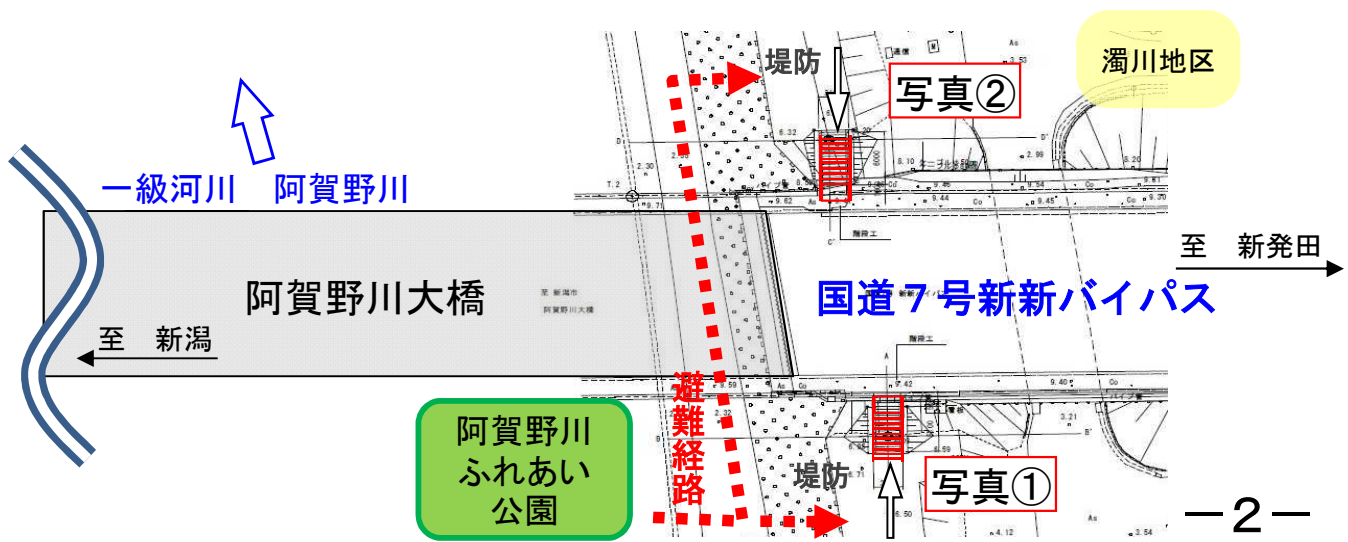
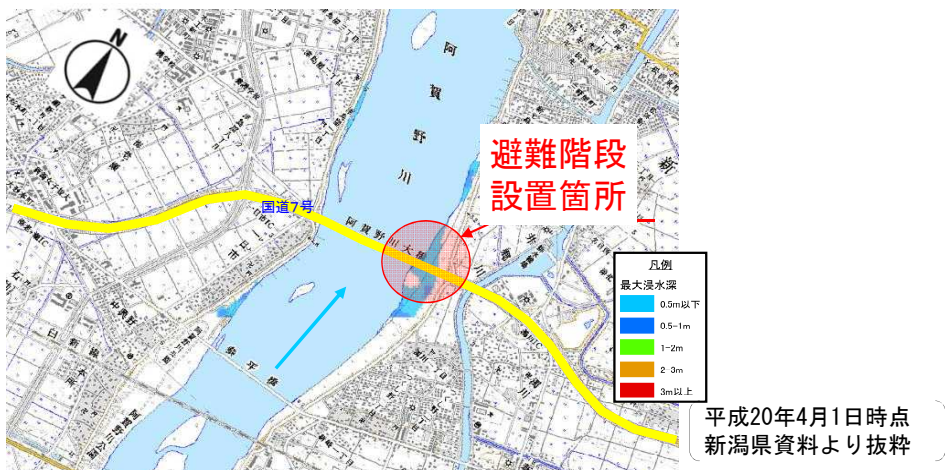


海拔表示シート
設置作業状況

(平成24年10月17日 新潟日報朝刊)

緊急避難階段の設置

- ◆ 津波発生時に浸水が想定される河川敷施設（阿賀野川ふれあい公園）利用者及び周辺住民の避難経路確保のため、平成24年3月に避難階段を整備。
- ◆ 津波以外にも、降雨による水防作業や自治会主導による訓練等でも使用予定。北区作成の「安心ガイドブック」に掲載され、北区全戸に配布。



■橋梁の耐震補強の実施について

耐震補強事業の概要

平成7年1月17日発生 of 阪神淡路大震災を受けて、道路橋示方書が改訂された。
 そのため、阪神淡路大震災より前の旧道路橋示方書に基づき設計された橋梁については、現在の道路橋示方書の耐震基準を満足していないことから、橋脚補強等の耐震補強を実施し、安全・安心な緊急輸送道路ネットワークを確保するものである。

新潟市内における対策状況

	管理 橋梁数	落橋防止措置		耐震化措置			備考
		対策 完了 橋梁数	対策 完了率	対策 必要 橋梁数	対策 完了 橋梁数	対策 完了率	
新潟国道 管内(新潟 市内)	170	170	100%	15	5	33%	耐震化 対策中橋梁 :3橋

※1:3カ年プログラムによる「落橋防止措置」は全橋梁対策済み
 ※2:耐震化対策必要橋梁数は、県庁間を結ぶ1wayルート上の橋梁を対象

新潟国道における状況

- ◆116号千歳大橋(上下)は、平成24年度に対策完了。
- ◆116号平成大橋(上下)は、平成25年度から対策工事を実施中。
 →千歳大橋及び平成大橋の耐震補強が完了することにより、主要防災拠点(北陸地方整備局、新潟県庁、新潟市役所)へのアクセス路が確保され、震災時の速やかな対応を支援することが可能となる。
- ◆7号新新BP切尾橋(上)は平成24年度から対策工事を実施中。
 →切尾橋(上)の耐震補強が完了することにより、新新バイパスの上り線の耐震対策が完了され、新潟市の中心市街地部と新潟東港・陸上自衛隊新発田駐屯地等とのアクセス路が確保され、震災時の速やかな復興支援が可能となる。



【参考資料】 東日本大震災における橋梁の耐震補強等による効果

- 阪神淡路大震災(H7)での橋梁の被害を踏まえ、耐震補強対策を実施してきており、対策後の橋梁では落橋などの致命的な被害を回避。
→震災後の早期復旧活動に寄与

国道45号 (観測震度:震度6弱)



橋脚補強

【耐震補強済み(鋼板の巻立補強)】
地震動により損傷なし

県道 (観測震度:震度5弱)



橋脚補強なし

【耐震補強未実施】
橋脚が地震動により損傷あり